

米子工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	建築史 I
科目基礎情報					
科目番号	0033	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科	対象学年	3		
開設期	通年	週時間数	2		
教科書/教材	光井渉・太記祐一『建築と都市の歴史』				
担当教員	熊谷 昌彦,高増 佳子				
到達目標					
1.身近に残る建築に興味関心を持つことができる 2.建物の歴史背景や時代による変遷を理解できる 3.各時代の建物の特徴について説明できる					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
身近に残る建築に興味関心を持つことができる	実際の建物を見に行く	実際の建物を見たいと思う	全く興味関心がない		
建物の歴史背景や時代による変遷を理解できる	好きな分野(民家・社寺・城郭)の通史が説明できる	好きな建築物の説明ができる	好きな建築物の説明ができない		
各時代の建物の特徴について説明できる	各時代(原始・古代・中世・近世・近代)の建物の特徴について説明できる	各時代の建物の特徴について一部説明できる	各時代の建物の特徴について説明できない		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 A					
教育方法等					
概要	日本建築の様式・構造・意匠の名称といった基礎知識を習得する。また種別ごとに時代の流れに沿って建築学的な特色・特質と変遷を学ぶ。				
授業の進め方・方法	住宅・民家建築、神社・寺院建築を中心に、古代・中世・近世・近代という歴史的流れを通じて、日本建築の特色と変遷を理解する。 (1)日本建築における自然と社会的背景を理解する。 (2)日本建築の構造、材料の特徴を理解する。 (3)日本建築の意匠の特徴を理解する。 (4)日本人の建築観を理解する。 (5)日本建築の伝統の維持について理解する。 (6)以上の項目を踏まえて、我が国に伝わる伝統的建築の特質と変遷を修得し、「我が国の伝統的建築」に対する理解と造詣を深める。				
注意点	基本的には板書による講義形式と、その内容に応じたスライドによる講義形式を交互に行う。授業プリントを用意するが、板書以外の口頭で伝える内容においても重要と思うものは各自メモを取るなり心掛けてもらいたい。 実際に現存する実例を訪ね歩く魅力を感じ取ってもらえると望ましい。 また従来の日本建築の意匠・構造を現代の建築に応用できるよう、設計製図の参考にして欲しい。 質問などがある学生は随時研究室を訪ねること。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業のガイダンス	各時代の説明	
		2週	寺院建築1	伽藍配置の考え方がわかる	
		3週	寺院建築2	堂の特徴がわかる	
		4週	寺院建築3	和様の考え方がわかる	
		5週	寺院建築4	唐様・大仏様の考え方がわかる	
		6週	寺院建築5	塔婆の特徴がわかる	
		7週	移築・復元・復興	古建築の現状がわかる	
		8週	前期中間試験		
	2ndQ	9週	テスト直し	身近な神社の紹介	
		10週	神社1	神社の歴史がわかる	
		11週	神社2	神社形式の種類がわかる	
		12週	城郭建築1	城郭の歴史がわかる	
		13週	城郭建築2	天守の構造がわかる	
		14週	城郭建築3	御殿の目的がわかる	
		15週	身近な名建築	最近の研究内容紹介	
		16週	前期期末試験		
後期	3rdQ	1週	テスト直し	夏休みの見学発表	
		2週	原始の住宅建築	竪穴住居・平地住居・高床住	
		3週	古代の住宅建築1	間面記法・身舎と庇の考え方	
		4週	古代の住宅建築2	寝殿造の特徴がわかる	
		5週	中世～近世の住宅建築	主殿造・書院造の特徴がわかる	
		6週	近世の住宅建築1	茶室の特徴がわかる	
		7週	近世の住宅建築2	数奇屋造の特徴がわかる	
		8週	後期中間試験		
	4thQ	9週	テスト直し 冬休み課題の発表	冬休み課題の発表	
		10週	文化財	文化財の種類がわかる	

	11週	近世の住宅建築1	町家の特徴がわかる
	12週	近世の住宅建築2	農家の特徴がわかる
	13週	近世の住宅建築3	日本各地の民家形式がわかる
	14週	近世の住宅建築4	古い町並みの特徴がわかる
	15週	移築・復元・復原・復興	古建築の現状がわかる
	16週	後期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	工学基礎	工学実験技術(各種測定方法、データ処理、考察方法)	物理、化学、情報、工学における基礎的な原理や現象を明らかにするための実験手法、実験手順について説明できる。	2		
			実験装置や測定器の操作、及び実験器具・試薬・材料の正しい取扱を身に付け、安全に実験できる。	2		
			実験データの分析、誤差解析、有効桁数の評価、整理の仕方、考察の論理性に配慮して実践できる。	2		
			実験テーマの目的に沿って実験・測定結果の妥当性など実験データについて論理的な考察ができる。	2		
			実験ノートや実験レポートの記載方法に沿ってレポート作成を実践できる。	2	前3	
			実験・実習を安全性や禁止事項など配慮して実践できる。	2	後9	
			個人・複数名での実験・実習であっても役割を意識して主体的に取り組むことができる。	2	前6	
			共同実験における基本的ルールを把握し、実践できる。	2	後9	
	レポートを期限内に提出できるように計画を立て、それを実践できる。	2	後9			
	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	前7,前8,前9,前15,前16,後1,後8,後9,後10,後15,後16	
			様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	前7,前8,前9,前15,前16,後1,後8,後9,後10,後15,後16	
			異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	前7,前8,前9,前15,前16,後1,後8,後9,後10,後15,後16	
それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。			3	前7,前8,前9,前15,前16,後1,後8,後9,後10,後15,後16		
専門的能力	分野別の専門工学	建築系分野	計画・歴史	都市と農村の計画について説明できる。	2	後11,後12,後16
				原始(例えば、竪穴住居、高床建築、集落など)の特徴について説明できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前8,前10,前11,前12,前13,前14,前16,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後11,後12,後13,後14,後16
				古代(例えば、住宅建築、寝殿造、都市計画、神社建築、寺院建築など)の特徴について説明できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前8,前10,前11,前12,前13,前14,前16,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後11,後12,後13,後14,後16

				中世(例えば、住宅建築、神社建築、寺院建築(大仏様、禅宗様、折衷様など))の特徴について説明できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前8,前10,前11,前12,前13,前14,前16,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後11,後12,後13,後14,後16
				近世(例えば、住宅建築、書院造、数寄屋風書院、町屋、農家、茶室、霊廟、社寺建築、城郭)の特徴について説明できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前8,前10,前11,前12,前13,前14,前16,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後11,後12,後13,後14,後16

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	20	0	0	0	0	10	30
専門的能力	60	0	0	0	0	10	70
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0